

からだとトポス (空間)

—イビデの人々のアバメレスリングダンス を事例にして—

クリス・ウゴロ

ベニン大学, ベニンシティ ナイジェリア

立命館大学 遠藤 保子

I 概要

本稿では、イビデ (Igbide) の人々が行っているアバメレスリングダンスを事例に2つの不可欠な要素である身体と空間に焦点をあてた。このダンスを対象にした理由は、空間の使い方が重要であり、パフォーマンスが開催される空間が変化し、それに伴ってパフォーマンス自体が変容したからである。長い間、パフォーマンスは、慣例に従いながら次の4つのタイプの空間において行われてきた：1. 舞踊の発祥地であるコミュニティの生けすに続く小道、ダンサーが神に敬意を払い、演技の始まりを町中に知らせるために使われる道路や村の神社に通じる道 2. 模擬レスリングに変容されたときから会場になったイビデコミュニティのマーケット広場 3. エル (Eru) 小学校の運動場 4. ファミリーコンパウンド。

上記の変化の背景には、パフォーマンスがあまりに手の込んだものになったためマーケット広場で行うことがむずかしくなったことがあげられる。また空間利用の変化は、パフォーマンスやダンサーと観客との関わりに大きな影響を与えたと指摘することができる。

II アバメレスリングダンスの歴史的起源

イビデ人のアバメレスリングダンスパフォーマンスは、社会的、政治的な理由によって、それまでの身体活動がダンスに変容したユニークな例である。

イビデ人は、ナイジェリアの少数民族であるイソコ (Isokos) 民族に属している。彼らは産油地域であるナイジェリアデルタ地域に住んでいる。植生は、沼地でマングローブが生い茂る熱帯雨林であり、そこには大西洋に注いでいる膨大な数のク^リック^川や川が流れている。イビデの人々は現在、デルタ州イソコ南部の自治区に属し、地理的には東経6° 25'、北緯5° 6'にある。前述したように沼地のマングローブ森林植生で、地域を川や湖に囲まれていることから、イビデの人々は多くの生けすを所有している。彼らは自給自足農業に従事しているにも関わらず、漁業も行っている。イビデコミュニティにおいては、その生けすから水を

くみ出す身体活動がもとになって、17世紀アバメダンスが誕生し、変容してきたのである。これは、イギリスから独立する以前の1658年以降のことである。アバメダンスになった要因は、前述したように社会・政治的側面がある。政治的とは、年齢階梯のイニシエーションを経て、コミュニティにおいて若者をどのような政治的地位に就かせるかということの意味する。

水をくみ出す活動は、たいてい3月のドライハマターンの時期に行われてきた。漁業に適するまでに生けすの水位を少なくしなければならない。特に漁業が行われる朝の時間帯の水温は、とても冷たい。そのため、若者たちは生けすに入る前に、レスリングの取り組みを行うなどの準備運動をしなければならない。また、生年月日の記録を持たない彼らにとって、年功を決めるためのレスリング大会は必要であったので行われてきた。さらに、イビデコミュニティの政治機構は、歳をとっているほど尊敬される年長者たちによって物事が決められていることも特筆にあたいする。

レスリング大会では、その強さのために年長者と認められる勝者が誕生する。また勝者は、誰よりも初めに生けすに入り、水をくみ出す作業をおこなうことが出来る資格を与えられ、尊敬され、優遇をうけることができる。敗者は、魚を取りやすい水位になるまで冷たい水をくみ出すいっぽう、勝者はその水位になるまで待っている。魚をとった後、勝者は多くの魚を手に入れることができ、敗者は、勝者に自分の農場から出来た生産物を与えなければならない。負けることによって生まれる屈辱感のために、怠惰な人でも勝つことが出来るように大会中に魔よけ (charm) を使うことに繋がった。こうしてレスリングは、死者や一生の身体障害を残す者を出すような、激しく恐ろしいものへと変容していった。

コミュニティ管理をするはずの若者たちがいなくなることを恐れた、年長者審議会 (Elder Council) は、レスリングをダンスパフォーマンスにかえることを決めた。

今日におけるダンスの目的は、年長者と共に、コミュニティに影響を与える決断を行なう場に同席することが許される、成人へのイニシエーションへと変容している。ダンスパフォーマンスを行うステージ/空間は、それまでの生けすに続く道やマーケット広場などから、何倍も広い空間へと変化していった。そして、生けすの周辺は、コミュニティの神々が宿る神社へと変わった。これらの空間は、人々にとって神聖な場所になっていった。アフリカ社会において、特にマーケットがたった後の広場は、スピリットが集まるといわれているように、とても神聖な場所であると考えられている。

Ⅲ アバメレスリングダンスのパフォーマンス

王 (Ovie) によってアバメレスリング祭の日が決められた後、エモ-アメ (Emo-Ame) と呼ばれる人になるすべての人々が、異なる地域 (区域) においてオレット (Oletu) によって登録される。オレットとは、青年審議会 (youth council) の長であり、オゲディオン (Ogbedion) という、王の諮問委員会の一員である。イビデの政治機構は5つの地域から成り立っている：ウルエレ (Uruwhre)、エクポ (Ekpo)、オクポロ (Okpohro)、オウオドクポクポ (Owodokpokpo)、オテリ (Oteri) である。これらの地域は後に、2つの対立するグループ：ウナメ (Unuame) とアザグバ (Azagba) に分けられる。この2つのグループはイビデの人々にとって重大な歴史の意味を持つのである。ウナメの人々は、古ベニン王国から移住してきたといわれており、アザグバの人々は、ナイジェリアのイボランドのMgbidiから移住してきたといわれている。

参加登録する年齢は、普通18から35歳である。3年に1度、3月から4月にかけて行われるアバメレスリング祭の3週間前、参加登録をした若者たちは、藪道の掃除、道路や橋の建設、生けす魚とりやその他の任務などの割り当てられた社会奉仕活動に動員される。そのため稽古は夜に行われるのである。パフォーマンスの当日、エモ-アメは、オレットのコンパウンドに集まり、ダンスのための特別なドラムを聴く。このドラムはオドフ (Odhu) と呼ばれている。ここでメンバー達は、最後の指示を受け、エモ-アメだけに意味のある儀式を行なう。また、ダンサー達は、経験豊富なオガ-アメ (Ogba-Ame：ダンサーのリーダー) から最後の練習をしてもらう。オガ-アメは、グループを先導するために選ばれ、ウナメとアザグバのダンサーたちを先導する。

彼らは、パフォーマンスの間に邪悪な力 (evil forces) から身を守るために、特別に用意されたハーブの風呂に入る。ナイジェリアの多くの社会では、スピリットは祝いの催しやダンスパフォーマンスを見に来るといわれており、そのためにダンサーたちは魔よけの飾りを付けるなどして、邪悪なスピリットが入り込まないように、彼等自身で身を守らなければいけないのである。

オガ-アメは勇敢さ、機敏さ、そして柔軟性を発揮する人物であるといわれており、彼はリーダー気質や、仲間から尊敬を集めるカリスマ性をもっている。

ダンスパフォーマンスは、観客の前で行う前に、まずオレットのコンパウンドで行われる。そしてその後、町を行進しながら生けすにむかうのである。リーダーは先頭を歩き、その他のダンサー達はそれに続く。彼らは戦争の歌を、まるで兵士たちが



写真1：ベニン大学構内にある
Ogba-Ameの彫刻 2007年撮影

戦場に向かうような雰囲気で行進する。そのなかの1曲は次のような内容である

コール：彼は電気魚 (うなぎのようなもの) を触ったんだ。

リスポンス：電気魚は彼にショックを与えるだろう。

これを何度も何度も繰り返す。生けすに向かう途中、伝統的な司祭が箒をもって彼らの前に現れる。その司祭はダンサー達の練り歩きと共に道を掃除する。これもまた邪悪なスピリットを払拭するためのものである。彼らが神社に着くと、神のご加護とダンスパフォーマンスの成功のために生贄を捧げる。そして、彼らの到着を待ちのぞんでいる王、長老審議会のメンバー、そして観客がいるマーケット広場へと戻るのである。広場に到着すると、ダンサーたちは、王と長老審議会のメンバーに向かって半円を描くような隊形になり、オガ-アメはソロ詠唱しながら開演する。

彼はどこだ？

私に挑戦してくるやつはどこだ？

私は、レスリングをしたい。

私の挑戦者はどこだ？

この詠唱の間、彼は、アリーナを脅すように飛び跳ねて歩き回り、両手は伸ばしたり体に近づけたりするのである。この動きは対戦相手を探していることを表している。時折、架空の対戦相手をつかみ、持ち上げ、地面にたたきつけるような動作をする。そして、彼が王の前に着くと、次のよ

うな内容の事を大声に出すのである。

レスリングをしてきた。

相手は倒れた。

相手は地面にひれ伏している。

王は、白い粉オレ (Ore) を彼の額に投げつける。すると観客たちは拍手喝采で歓迎するのである。

コール：エーエー

レスポンス：イエーエエエ

この手ほどきを受けた者は、公的にコミュニティの長老級の地位としてみなされるのである。もしこれらの順番を間違えたり、言い忘れたりすると、その者は資格を受けられず、次の3年後を待たなくては行けない。このソロダンスの終わりには、他のすべてのダンサーがアリーナに上がり、自由に踊りながらオレツの屋敷へと帰っていくのである。その後ダンサーたちは各自の家に帰り、友人や親戚を集めてまた踊る。そしてダンスは大宴会のうちに終わるのである。

IV アバメダンスの舞台と演出慣習

前述したように、アバメダンスはそのはじめから現在に至るまで、以下の4つのタイプの場所/空間で行われている。

IV・1 道

IV・1・1 生けすに続く歩道

生けすに続く草で覆われた歩道である。3月から4月の間、草は枯れる。そのため伝統的なレスリングの動きであるストライド、ジャンプ、ステップ等を行うのに十分な空間が出来るのである。

IV・1・2 道路や神社 (Attawha) への道

ここでの演技は、行列をなして行われ、観客は道の両側や後ろからついてくる。オドフ (ドラム) は先頭の人に運ばれ、生けすの周辺にある村の神社に向かう行列のために演奏される。演技が道で行われている一方で、司祭がダンサーたちの前で邪悪な力を払っている。

IV・2 イビデコミュニティのマーケット広場

マーケット広場は長方形をしている。そこは砂地で、王と長老審議会のメンバー達が、1辺に座っており、残りの3辺を観客達が埋め尽くしている。演技はアリーナの中心で、王のほうを向いて行われる。ダンサー達のフォーメーションは、半円であり、その円ないソロやグループ演技が円の内側で順番に行われる。舞踊動作や空間の利用は自由である。

IV・3 エル小学校の運動場

エルとは、イビデの町の創設者のうちの一人の名前にちなんで付けられた。近年になって、マーケット広場がダンサーと観客を収容するのに不十分になったため、小学校が会場になった。というのも、他の地域の人々が祭りに見に来るようになったためである。この会場のフォーメーションもマーケット広場のように長方形で、中央で演技が行われているのを1辺から王、長老審議会、司祭達が日陰から見つめ、その他の3辺から観客が立って鑑賞する。

IV・4 ファミリーコンパウンド

ここでは、各ダンサーが自分の家族の前で踊る。たいていは一人だが、家族の人がいっしょに踊ることもある。



写真2：家族の前でダンスを披露する
アバメダンサー 1976年撮影

V 衣装・化粧・小道具

アバメレスリングダンスの場所や空間に変化があったように、衣装にも変化があった。初めの頃、衣装はゆったりしたズボンと袖なしシャツの単純な農作業服だった。これがウブルク (ubuluku) と呼ばれるスカートとストックを上にしたウール製の帽子に変わった。これらは後に、更に華やかになり、赤、黄、白が混ざったような色に変化した。色鮮やかなスカーフは、スカートの周りに巻かれ、腰の位置には鈴も付けられるようになった。お守りの飾りは額と腕に巻かれ、ダンサーによっては色とりどりの手団扇エドフドフ (edhudhu) をもったりする。化粧は、白い斑点を顔につけ、木炭を使って体に絵を描き、ダンサー (特に顔) は不思議なルックスをしている。アガアメは、羽で出来た帽子をただ一人かぶっており、彼の衣装はとても豪華で華やかである。

VI 結論

ナイジェリアの伝統的舞踊における空間の利用



写真3：アバメダンサーの典型的なポーズ
(かかってこいという意)

1983年撮影

は、いくつかの区域からダンサーが集まるので、とても流動的であるといえる。コミュニティのほとんどが、スピリチュアルな力を再確認する重要なアリーナとなっている。祭儀を行なう家を除いて、パフォーマンスは、普通屋外で行なわれる。生けすへ続く歩道は、活動（魚とり）の場所の近くにあるために使われている。またマーケット広場は、2つの理由から使われている。つまりアフリカでは、スピリットや先祖がマーケットを訪れ、そこで会合を持つと信じられてきた。先祖はスピリットの姿をして演技見物に訪れ、将来の政治的リーダーになるものへの、精神的な信頼性を与える儀式の証人となるのである。道には、ポジティブまたはネガティブなスピリチュアルパワーが宿るといわれている。したがって司祭は、ダンサーたちが神社に向かう道を掃いているのである。家のコンパウンドには神社があり、神や家族のメンバーの前で踊ることは、コミュニティにおけるそのダンサーの新たな地位の確信を意味するのである。

コミュニティは、パフォーマンスにおいて重要な意味を持つ場所と結びつき、力を生み出す。また空間や場所が、形而下学と形而上学、自然と超自然のどちらとも捉えられるナイジェリアにおいて、ダンスにおける身体も、空間や場所と同じように考えられるしたがって、身体は、移動手段（way）として使われる。これは、スピリットがどこにでも偏在し、場所を特定できないことと同じであると思われる。